

H22年度 合格体験記

授業＋αの努力

都留文科大学文学部国文学科
建築デザイン系列 R.M

私は都留文科大学の国文学科を受験するにあたり、小論文対策にとっても苦労しました。建築デザイン系列に所属していたため、国語の授業が週2時間しかなく、普通科高校から受験する人たちに比べて国語（特に古文）に関する知識が乏しかったので、まずはそれを補うことが重要でした。都留文科大学の一般推薦の入試問題は現代文と古文の融合問題だったので、文章力だけではなく和歌や短歌の技法や漢字、文法など古文に関する幅広い知識を身につける必要がありました。

夏季休業中は国体の練習や遠征の合間に小論文を書き、古文の問題集を解きました。暑い中練習した後に集中して勉強するのは大変でしたが、取り組むからには国体も受験も成果を出したいと考えていたので自分を甘やかさず両方に力を注ぎました。部活動を引退してから受験までの約2ヶ月間は、毎日2時間程度職員室で勉強しました。

受験本番では落ち着いて自分の力を発揮できたように感じます。小論文も短い試験時間の中で納得のいくものを仕上げることができました。建築デザイン系列から国文学科を受験することは簡単ではありませんでしたが、受験を通して「継続して努力すること」の大切さを改めて実感しました。また、弓道部の活動の中で身につけた「自分を信じて何事にも積極的に取り組む力」が合格に大きく影響したように感じています。

努力の日々

日本大学商学部会計学科
ビジネス系列 Y. W

2年次生の頃の進路希望は、専門学校への進学でした。しかし、3年の春、大学という選択肢もあるのではないかと考えて先生に相談したところ、まだ間に合うとのこと、急ぎょ大学へと希望進学先を変えました。以前から大学には憧れを持っていたので、絶対に合格してやる、と意気込んでいました。

試験内容は小論文と面接で、小論文については、夏休み明けの9月から先生方による指導がありました。思うように書くことが出来ず、毎日のように朝方まで作業をしていたので、精神的にとっても辛かったです。それでもなかなか上達せずに伸び悩んでいたため、始めて小論文にOKがでた日は、とても嬉しくて舞い上がっていたのを憶えています。ある程度小論文が書けるようになるまでに3ヶ月ほどかかってしまいました。平行して面接練習も受けていたため、この時期は寝る時間が惜しいくらいでした。

多くの先生方にお世話になり、ご迷惑をおかけしたとは思いますが、無事合格することができ、感謝の気持ちでいっぱいです。自分自身もここまで頑張ったのは初めてだったので、大きな達成感を感じています。この達成感を次につなげ、これからの将来に向け、大学でがんばっていきたいと思っています。

夢への第一歩

トヨタ東京自動車大学校 1級自動車科

私は小学校の時から夢である自動車整備士になるために少しでも知識をつけようと思い、機械テクノロジー系列に入りました。1年生の時に産社の授業でトヨタ東京自動車大学の先生が授業をしてくださり、とても楽しかったことから、この学校に進学したいと強く思うようになりました。その後、学校見学会に参加したり、他の自動車学校と比較したりして、最終的にトヨタ東京自動車大学を受験することに決めました。

私は、指定校推薦で1級自動車科を受験しました。特待生選抜もあわせて受けたので、数学の筆記問題と面接がありました。数学は学校見学会の時にもらった問題を何度も分かるまで解きました。面接は、まず質問されそうなものを書き出し、返答の文章を考え、指導の先生に指摘されたものを何度も書き直しました。そして暇があればその文章を見たり、夜には親に練習を手伝ってもらったりしました。

当日は緊張をしていましたが面接の最初に大きな声であいさつしたことで、少し緊張がほぐれ、練習通りしっかりと受けられました。その結果トヨタ東京自動車大学1級自動車科に特待生で合格することができました。私が合格出来たのは、相談のってくださった先生方、友達、家族などのたくさんの支えがあったからだと思います。合格で終わりではなく、これからが本番だと思っています。自分への夢に向かっての第一歩を踏み出せたと思います。これから頑張りたいと思います。

合格までの道のり

私が実践女子大学を受験することを決めたのは、9月の後半だ。周りを見ると、ほぼ全員の人が希望する進学先や就職先が決まっています。中には、就職内定者もいた。そんな状況の中でじっくりと進学先を決めるのは、焦りと不安を伴った。だが、焦って決断を急ぐことはなく最後まで粘り強く考えて決めたことは、今となっては正しい決断であったと思える。

そして、最も苦労したのはここからだ。進学先が決められたからといって落ち着いてはいらなかった。書類などを送ったあと、小論文の指導が始まった。小論文なんて授業で時々書いていた程度だったため、書く内容もスピードも全く駄目だった。だが、先生方が親身になって指導してくれ、何度も何度も書き重ねていくうちに徐々に書けるようになった。面接に関しても最初は全く出来ていなかったが、先生方の指導や自分の努力で、試験に間に合わせる事が出来た。

このような取り組みをしていく中で、私は、改めて周囲の人の支えの大きさや大切さに気付いた。先生方は、忙しいにもかかわらず、親身になって指導して下さい、家族は、最後まで真剣に相談に乗ってくれ、友達は、何も言わなくても不安な気持ちに気付いてくれた。だからこそ私は、大学に合格が決まった時、嬉しさと同時に感謝の気持ちでいっぱいだった。4月からの生活には、不安もあるがこれまで支えてくれた人たちに感謝しながら大学生活を送っていききたい。

看護専門学校に合格するまで

富士吉田市立看護専門学校
教養系列自然 S.H

私は、指定校推薦で富士吉田市立看護専門学校を受験した。私が看護の道を目指したきっかけは、人の役に立ちたいという思いが一番強かったからだ。また、たくさんの苦しんでいる人を勇気づけ、笑顔を作れる人になりたいとも考えたからだ。

そう思い始めたのは中学生の頃だった。しかし、その思いは漠然としていて、具体的な行動には結びつかなかった。特に目標のなかった私は、高校生になったらまず人の役に立ちたいと考え、野球部に所属してマネージャーとして活動を始めた。その中で、人の役に立つことの大切さや苦しさを始めて実感した。今まで知らなかった感動や喜び、悲しみを体験することができた。この経験があったからこそ、私の心は強くなったし、大きく成長できた。だから私は、この3年間で過ごした部活動での経験を、これからも生かしていきたいと考えている。

仲間の大切さや野球を通じて感じた様々な思いは私だけの経験であって、それを活かし、私にしかできないような看護を実践し、たくさんの人々を支え、たくさんの方々の笑顔を見ていきたいと思う。高校背活の中で数え切れないほどの人たちに感謝してきた。だから、次は私が少しでも周囲の人に感謝される、温かい看護師になりたい。

事前準備の大切さ

東京電機大学工学部
情報エレクトロニクス系列 K.Y

私は、指定校推薦で、東京電機大学に合格しました。

電大は、指定校の中でも条件が厳しかったのですが、基準の評定平均は満たしていたので思いきって挑戦しました。受験内容は、800字程度の小論文と15分の面接だったので、いろいろな先生に小論文と面接の練習をお願いしました。小論文は書き方さえ覚えてしまえば、あとは知識と発想力にかかっているのです。本や新聞を読んだりニュースを見たりして、知識を深め、たくわえておくことが大切です。一般常識や関心を持ったニュースなどは面接で聞かれやすいので、その対策にもなります。面接は、始めのうちは、答えがなかなか思い浮かばず、苦手でしたが、先生にアドバイスをいただきながら、徐々に慣れていきました。

試験内容はそこまで難しいものではなかったので、落ち着いて自分の実力を発揮できました。準備を始める時期が遅く、焦る時もあったので、もっと早くから動き始めたほうがよかったなと思いました。早めの準備と、小論文と面接の数をこなすこと、この2つをやっておけば、必ず合格できると思います。あとは、オープンキャンパスで、大学生の先輩や、先生からアドバイスをもらおうと、かなり有益な情報を知ることができるのでおすすめです。

消防士を目指して

富士五湖広域行政事務組合消防職
教養系列人文科学コース T.O

私の夢は、消防士になることだった。私が消防士になりたいと思ったのは、オレンジ色の服を着て、重い荷物を背負い、消火活動や人命救助の作業に取り組んでい

る姿に感銘を受けたからだった。

部活を引退し、夢だった消防士について詳しく調べ始めた。消防士という職業の詳しい仕事内容、また、採用人数や一次、二次の試験内容はどうなのかなど細かい部分まで調べた。この他にも、甲府消防、都留消防、東京消防庁などといった他の市町村、他県の消防関係のものまで調べた。選択肢はいくつかあったが、地元の富士五湖消防一本に絞った。

一次試験はなんとか合格することができた。二次試験の面接、作文、体力テストに関しては毎日練習をした。特別なことはせず、基本的なことを何度も繰り返し、その結果合格することができた。

両親からは消防士になることを反対されていたが、消防士になりたいという思いが強く、反対も押し切り、受験した。後輩たちも、自分のなりたいものを見つけ、反対されても決して諦めずに頑張ってもらいたい。

夢に向かって

東京電力株式会社 山梨支店
電気情報系列 K.K

私は、中学校の頃から高校卒業後は就職しよう決めていました。しかし「就職したい」と思っているだけで、どのようなことに手を付けて良いか分からず、就職について行動をはじめたのは、3年の6月頃でした。また東京電力に入りたいと考えたのは1年の系列が決まるときでした。

就職試験に合格し、東京電力に入社するために、前年度・前々年度に東京電力を受験した先輩方のレポートを見て、これからどのように勉強をしていくか計画を立てることから始めました。東京電力は筆記試験と面接だったので6月から受験までの期間、自分にできることは精一杯やり、努力を続けてきました。筆記試験対策としては、一般常識の問題集を2、3冊問いたり、ニュースや新聞を見て、頭の中で自分なりに考えをまとめたりしていました。面接は、北稜高校に入学する際も前期入試の面接で受検したので、流れは分かっていたのですが、聞かれる内容がしっかりと企業のことを調べていないと答えられなかったりしたので、多くの先生方に指導して頂きました。

東京電力に内定が決まったのは、たくさんの人達に支えられ、励まされてきたからだと思います。内定が決まるまでにお世話になった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

最後に「努力の分だけ自信になる」と後輩達に伝えたいと思います。

「選択」

富士環境システム株式会社
建築デザイン系列 M.K

私が富士環境システム株式会社で働きたいと考えた理由は、建築デザイン系列で学んだ知識をいかしたいと思ったからです。求人票をはじめてみたときは、床暖房パネルの製造、断熱材の製造と書いてあったので、機械系の仕事がメインなのかなと思いました。企業見学に行き実際に工場の中を見たときは、機械系の仕事が多かったので危機感を感じました。でも話を聞くと、実際に現場に行き施工をするということだっ

たので、ここでなら建築の技術をいかせると思い志望しました。

求人票を見たときの会社の印象と実際に企業見学に行ったときの会社の印象はかなり違ったので、企業見学に行くことはとてもためになったと思います。企業見学に行ったとき、説明が雑談のような緩い感じだったので、実際の面接の時も和やかな雰囲気で行われるのかと油断していました。しかし、面接の状況は思った以上に重く、質問の内容も最初は家族のことなど簡単な質問でしたが、後半は政治のことなど新聞を読んでいないとわからない質問をされました。新聞を読んで社会の状況も知っていた方がいいとそのとき思いました。

私も面接練習はしましたが、回数が少なく、ほとんど同じ先生としかしていなかったため、できるだけ数多く回数を重ね違う先生にお願いした方がいいと思います。

採用までの道のり

シチズンセイミツ株式会社
機会テクノロジー系列 H.G

私が就職の道を考え始めたのは、高校に入る前からでした。小さいころからものづくりが好きだった私は、製造業に関係のある仕事に就きたいと思い機械テクノロジー系列に入りました。系列の授業で必要な知識や技術を学ぶことができました。

私が実際に就職活動をし始めたのは、高校三年の夏休みからでした。いくつかの求人票が来ている職場を見学させていただき、その中で、二年生の時にも見学させていただいたシチズンセイミツ株式会社の仕事に興味を持ち、そこで実際に働いてみたいと思うようになりました。その後、シチズンセイミツ株式会社の入社試験を受験することに決めましたが、競争率が高かったため夏休みは全ての課外に出席して、勉学に励みました。また自主学習も行いました。勉学の方も頑張りましたが、私が一番頑張ったことは面接練習でした。先生方とたくさん練習をして、悪いところや、良いところ、多くのアドバイスをもらい、段々と良い面接になっていきました。先生方にはとても感謝しています。

試験当日は、始めは緊張していましたが、話をしているうちに緊張もなくなりました。自分なりにできたと思いました。適性検査は難しく、あまり良く出来ませんでした。すべての試験が終わり、担任の先生から内定の言葉を聞いた時は本当に嬉しかったです。今後は、会社の役に立てるよう頑張りたいと思います。

苦しさの先に・・・

株式会社加藤電器製作所
ビジネス系列 S.W

私が高校卒業後の進路について、真剣に考えはじめたのは高校1年生の終わりの頃でした。ビジネス系列に所属し、簿記やワープロの勉強をしていく中で、今学んでいることを生かすことのできる仕事をしたい、と思ったのがきっかけでした。

いよいよそれぞれの進路に向け一人一人本格的に動きはじめた高校3年生。7月の求人票の解禁とともに、私の戦いも始まりました。7月から毎日進路室へ通い、私の希望する

事務の仕事がないか探しました。夏休みには就職試験対策の課外に毎日参加し、苦手な英語や数学の勉強をしました。希望する就職先や面接の日が決まった私は、大きな不安に押しつぶされそうでした。担任の先生に泣きながら電話をしたこともありましたが、しかし周りの人に支えられながら、私は面接練習、普通教科の勉強に毎日取り組みました。面接練習は多くの先生方をお願いし、15回以上して何度も何度も注意を受けました。

9月16日、私は「内定」をいただきました。私の進路決定までの取り組みは、苦しく大変な道のりでした。不安で泣いたときやくじけそうになったときもありました。でもその苦しさを乗り越えたときの喜びは今までに、感じたことのないものでした。自分の希望する進路に進むためには、早めの行動と諦めない気持ちが大切だと思いました。苦しい分その辛さを乗り越えたときの喜びはびっくりするくらい大きいものでした。社会人になっても努力することを忘れずにいたいと思っています。

自分に合う就職先を

サンリビング株式会社
情報系列 A.S

私は情報系列に入って、パソコンを使った資格や簿記などの資格を取りました。就職といっても実際に学校に来た求人票を見ないと、どんな職に就けるかなんて分からないので、「とりあえず事務系か製造でいいや」と漠然と考えていました。そして三年になって七月の求人票が公開されてから二日に一度のペースで進路室に行き、求人票をチェックしました。ある時、営業事務で条件が「パソコンが使える人（ホームページビルダができれば尚）」と書かれた求人票を見つけました。三年になって系列の授業でちょうどホームページビルダを使っていたので、この会社でなら私も役に立てるかも、と思えた会社がサンリビング株式会社でした。

学校推薦をもらえた後は、面接の練習を頑張りました。面接ノートを作り、いろいろな質問に答えられるように答えを書き込んだりして、作文対策と兼ねて国語の先生に見ていただいたりなどしました。試験内容に「パソコン操作」とあり、何が出題されるのか分からなかった所以对策に困りましたが、とにかく使うだろうと思ったワード・エクセルなどの操作を練習してみました。本番ではとても緊張してしまい上手くできなかったな、と思いましたが、何とか内定をもらうことができました。

試験を受ける前にできることは、とにかく練習して、慣れることだと思います。私は受けた後、もっと準備しておけば良かったと後悔したので、練習を怠らないように頑張ってください。

内定までの道のり

特別養護老人ホーム 慶和荘
福祉健康系列 S.O

私が初めて「福祉」というものに興味・関心を持ったのは、小学生の時です。訪問した施設で、高齢者の方を相手に一生懸命働く「介護士」の方々の姿を見て、私も介護士になりたいと思い、北稜高校で福祉健康系列に入りました。

私の場合、受験から内定を頂くまで長い道のりがありました。まず面接をし、その後も実際に施設に行き、計2日間実習をしました。そこでたくさんの利用者の方達と触れ合いました。この2日間の実習も、もちろん入社試験の一部です。その結果、無事に私の夢だ

った介護士の職を得、「慶和荘」から就職内定の通知を頂きました。介護の仕事は、とても大変な仕事です。途中で逃げだしたくなったり、挫折しそうになったりもすると思います。ですが、一度自分で決めたことなので、最後まで自分らしく、仕事が続けられれば良いなと思います。

社会人になったら、高校生とは違い、「一人の大人」として扱われます。自分のミスが周りの多くの人達にも迷惑をかけてしまいます。社会人に一番大切なことは「責任感」だと思うので、責任ある行動のとれる大人になれば良いなと思います。